

2013年度 関東ブロック救助隊交流集会／雪山搬出訓練 レポート

千葉県勤労者山岳連盟救助隊

記録班／住田、樋口

1. 経緯

2013年度 関東ブロック救助隊交流集会が2014年2月22日（土曜）、23日（日曜）の二日間、谷川岳の登山口にある、土合山の家で行われた。今年は千葉県連救助隊が主管で、横山隊長のもと、吉田・徳永・神山の3人の副隊長が核となり、1年前から準備に着手、計画的に進められた。開催月に入り記録的な大雪の影響が心配されたものの、予定どおりの50名強の関東県内の救助隊員が参加し、無事に開催された。集会・訓練内容も充実しており、参加者の方々は満足のいく交流集会であったと思う。

2. 実施スケジュール

千葉県連救助隊の有志（20名）は前夜に土合駅に入り、役割分担等の最終ミーティングを行い、万全の準備で交流集会に臨んだ。初日はスキーシーズンに2週連続の大雪も重なって関越道が早朝から渋滞したこともあり、2時間半遅れの13：00開始となった。実施スケジュール（実績）は以下の通り。23日「ヒトココ」（防災通信機）を使った搜索訓練は、皆さん熱が入ったせいか、早く探索でき、前倒しのスケジュールで円滑に終了した。また、参加団体は、群馬県連、栃木県連、埼玉県連、埼玉県連、茨城県連、神奈川県連、千葉県連及び谷川岳山岳資料館ほかのご協力により開催した。

【2／22日】

13：00～ 開催の挨拶、オリエンテーション

13：05～ 警察庁山岳遭難事故状況について（全国連 川嶋事務局長）

14：25～ 千葉県連救助隊活動について（横山隊長）

15：25～ 「ヒトココ」（防災通信機）について

（オーセンテックジャパン社 久我代表）

19:30～ 各県連救助隊の活動報告会・懇親会

【2/23日】

8:30～ 「ヒトココ」（防災通信機）を応用した実地捜索訓練

11:30～ 訓練終了、昼食

12:30～ 反省会、閉会

3. 交流集会内容について

各講習内容において、要点のみ記載する。

【22日】

(1) 「平成24年中における山岳遭難の概況」（警察庁生活安全地域課）資料より

山岳遭難発生は年々増加している。山岳遭難の7割は登山。山岳遭難の原因の7割は道迷い・滑落・転落の順。年齢層別では60歳以上で半数を占める。高齢者の山岳遭難者数が多いが、年齢層別の登山実績数の統計量がないため推定となるが、依然として中高年の山岳遭難者の事故率は高いと思われる。

(2) 千葉県連救助隊活動について

救助されないよう、登山技術のスタンダード化による技術レベルの維持・



向上という普及活動を努めることで登山者の遭難・事故の発生を予防する活動に重点をおいている。数年前の夏の大雪山大量遭難死亡事故について、ザックには濡れていない衣類が持参のままであったことから、雨の中でも濡らさずに着替え

るツールを紹介（単なる大きなビニール袋をパーティーに1枚共同装備で持っていればよいと思った）。つぎに懸垂下降のスタンダード化による効果が表れていることを強調した。また、空中撮影機 Phantom を使って上空からの撮影映像を使い、遭難者を捜索する新



しい提案を紹介した。地上からの搜索は効率が悪く、このような空中撮影機による搜索は近い将来、救助隊の武器になると考える。

(3) 「ヒトココ」(防災通信機)について <http://www.authjapan.com/>

今回の講習会の目玉である。メーカーが商品紹介・開発目的・搜索原理などを簡潔に紹介いただいた。既存の雪崩ビーコンの代替品とした限られた季節・領域だけではなく、もっと幅広い様々な用途(ショッピングモール、遊園地・公園、駐車場・車探し、高齢者見守りなど)で使われることを前提としている。「ヒトココ」の特徴は非常に軽量(親機/90g、子機/20g)かつコンパクト(親機/107×64×13mm、子機/63×40×12mm)で、また充電寿命が長く(待機で親機/6ヶ月、子機/3ヶ月)、電波飛距離が広いこと(雪崩ビーコンは50m以内であるが、「ヒトココ」は見通しのある地上で数百m以内、上空からは5km以内)で、さらに複数の人がそれぞれ異なるIDの「ヒトココ」を持っていれば、



特定の人をピンポイントに探索できる、という特徴を持つ。すなわち、どちらかと言えば雪山限定ではなく、オールシーズンで携行するビーコンであるという使い方であり、入山開始か

ら常時電源を入れっぱなしで携行することで万が一遭難した場合に見つけ出される確率が高くなり、「ヒトココ」の利用価値はグンと上がるのではなかろうか。

(4) 各県連救助隊の活動報告会・懇親会

活発な意見交換がなされた。来年度幹事の神奈川県連救助隊の活動報告において、救助隊の役割が問われているとのことで、今後の活動方針が注目される。

《おもな意見・感想の内容（順不同）》

- ・「ヒトココ」は雪崩捜索には使えないだろうという感想。
- ・実際に使って軽かった。
- ・親機と子機を一緒に持っていれば発見した人を（通話中の人を）場所特定できるというアイデアがでました。
- ・「ヒトココ」で発見したが埋まっている場所が上のほうで、そこまでラッセルするのに手間取って時間がかかった。
- ・距離が遠くからでも捜索できることを実感。しかしながら時間がかかるので雪崩捜索には不向きなのでは。

【2/23日】

前々日に徳永・吉田副隊長が土合山の家の周辺に埋めた異なるIDの「ヒトココ」



の子機5機を探索する実地捜索訓練を行った。捜索者は「ヒトココ」親機で距離と方向を見ながら子機を探索する。200mとか300m離れた地点から子機を発見できることは素晴らしいし、なんといっても心強い。遠距離モードから近距離

モードに切り替わる10m前後で、測定方法の切り替えによる不安定さを感じる。近距離モードに入ると、距離と方向の表示だけでなく子機の電波強度を見ながら探索することで、子機に最接近できることを実感した。約3m以内では、ビーコンに比べてピンポイント探索では手間取るため、積雪期の登山であれば雪崩ビーコンと併用することで、ヒトココの短所と雪崩ビーコンの短所をお互いに補えられ、併用するのが良いと感じた。

注意：通常の雪崩ビーコンは、457kHzの周波数で捜索するのに対し、「ヒトココ」は個々の登録されたID番号（携帯電話のような感じ）で捜索をするシステムのため、互換性はありません。

4. 交流集会を終えて

救助隊の先輩方の段取りの良さが全てであり、今回の関東ブロック救助隊交流集会は

大成功であったと思います。個人的には、懇親会で皆様と十分な交流・意見交換ができるように、ハイグレード登山へのチャレンジと山行回数を稼ぎたいとの思いが強くなりました。

5. その他、参加した隊員からの感想・意見

- ・ 要救助者を発見した受信親機を持っている人の子機の番号をさがして受信すれば進行方向が分かる。
- ・ この先、山に行くときはザックに入れて行く「山のお守り」になりうる。
- ・ 軽量というのはかなり強み。
- ・ 搜索のコツを覚えればかなり有効。
- ・ 思ったより山で実際使えそう。
- ・ グローブでの操作がやりずらいのが困るすみません、思い出せる記憶がこんなもので・・・。
- ・ 今後の山行で、試していきたい。
- ・ 数m未満のピンポイント搜索では、ビーコン(ゾンデ)との併用が必要では。
- ・ 前回試験使用では使えないと感じたが、今回使い方ノウハウや仕組みを理解した上で使用し習熟すると、役に立つと思いなおした。
- ・ 10m 近辺でのモード切替時の不安定さを感じた。
- ・ 岩の反射?で、惑わされた。(まわりにダミーで付けられたトレースにも)
- ・ ラッセルでも、軽量のため気にならなかった。
- ・ 特に山スキーでは有効では。
- ・ 親機と子機の両方を携帯し、装着場所を工夫すると万全。
- ・ 個人的には、親機 1 個と子機 2 個を購入して、今後の山行(特に山スキー)で試験的に使ってみる予定です。
- ・ 滑走時、先頭の CL と最後の SL に子機をもってもらい、万一見失った時に。
- ・ 雪山時の赤旗の下に(赤旗間の距離をかせげる)。
- ・ 縦走ハイク(ピストン)時に、分岐不明点に赤旗代わりに。
- ・ 他にスキーゲレンデ練習時に、メンバーの方に。
- ・ 普段は家族とも常用の財布やウエストポーチ等の貴重品入れに同封し、置き忘れと万一の災害時の居場所発見に.....。
- ・ 「ヒトココ」の特性をうまく活用することで、より広範囲のツールになりうると感じた。
- ・